



水痘(みずぼうそう)

水疱を持った赤い発疹が特徴的です。最近ではお母さんがあらかじめ診断して「水ぼうそうです」といって連れて来てくれるケースが増えました。

初期には、同じような発疹をつくる「手足口病」や「とびひ」と区別しづらい場合がありますが、このような場合も時間の経過とともに水痘であることが明らかになります。皮疹は頭髪部や粘膜(口腔・陰部・結膜)にも出現します。

鼻・のど・結膜などから飛沫感染した、水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染により発症し、潜伏期間は14-21日と長めです。周囲の人にうつしてしまうのは、発疹のでる2日前から発疹出現後5-10日間ほど(痂皮化まで)です。

登園・登校が可能となるのは、「全ての発疹がかさぶたになったとき」です。自然経過では7-10日かかりますが、抗ウイルス剤で治療するとこれを約5日に短縮できます。抗ウイルス薬は発疹の広がりも少なくします。

口の中にも発疹ができて「しみる」ので、塩辛いものや酸っぱいものを含んだ食事は避けましょう。熱が引けたら入浴は可能ですが、さっと入浴して、バスタオルでこすらないようにしてください。入浴後はカチリを塗っておきましょう。

数千人に1人の割合で水痘脳炎という合併症を生ずることがあります。水痘の発熱は2日ほどで解熱するのが普通ですが、高熱が持続し、頭痛・嘔吐・痙攣などを伴った場合、この水痘脳炎や髄膜炎を疑います。

バファリンなどのサリチル酸製剤を解熱剤として使用することはライ症候群を誘発するので禁じられています。小児に通常解熱剤として投与されるアセトアミノフェン(カロナール)は問題ありません。

おくすりについて

みずぼうそうには以下のようなお薬が処方されます。

- 抗ウイルス薬:水痘の広がりをおさえます
バルトレックス細粒
ゾビラックス細粒
- 抗ヒスタミン薬:かゆみをおさえます
サジテン ドライシロップ
ペミラストン ドライシロップ
ペリアクチン シロップ など
- 解熱沈痛剤:熱のあるときに使用します
カロナール細粒
アンヒバ座薬 など
- ぬりぐすり:痒みを抑え、痕が残るのを防ぎます
カチリ(白い塗り薬)
- 稀に点滴でのアシクロビル投与を必要とする重症例がありますが、このような場合は入院を勧めます。